

くらしナビ

—ライフスタイル—

いつまでも生き生きと働いていたい——。そんなシニア世代の受け皿を目指し、急成長している会社がある。マンション管理を代行する「コミュニティセンター」（東京都練馬区）の契約社員や登録スタッフは60～80代が中心。定年はなく、趣味などと両立できるため、希望者が増えている。現場で働くシニアや異色の経営者の思いに迫った。

アクティブシニアを応援



定年なし マンション管理代行



マンションのゴミ置き場の整理をするコミュニティセンターのスタッフ＝同社提供

●自由な働き方

「居住者の財産を預かっているので丁寧に取り組みますよ」

コミュニティセンターの教育研修課に所属する原山明彦さん(70)は、新人スタッフの研修を担当している。60歳で運輸会社を退職後、別のマンション管理会社などを経て2021年10月に同社に契約社員として入社した。

週1回行っている研修では掃除道具の持ち方や床の拭き方などを教えている。月に数回はスタッフが働く各地のマンションで指導に当たる。勤務時間は平日午前9時～午後6時。高齢になっても働く理由について原山さんは「精神的に落ち着くから」と話す。人に何かを教えることが生きがいになり、ストレスや疲れはほとんど感じない。「元氣である限り働き続けたい」という。

同社はマンション管理人の代行やコンシェルジュ、清掃などのサービスを提供してい

る。定年などで退職したシニアを契約社員や登録制のスタッフとして採用し、管理会社

社会とのつながり感じて



コミュニティセンターの中川弘規代表取締役

●異色のトップ

輪の会は23年11月からは「コミュニティサークル」に名前を変え、ゴルフやカラオケ、ハイキング、マージャンなどのサークルを作ったメンバーを募る。コミュニティセンターの中川弘規代表取締役(51)は「社会とのつながりをスタッフに感じてもらいたい」と話す。

中川さんは異色の経歴の持ち主だ。コミュニティセンターのトップに就任する前は、オリックスで営業や管理部門、経営企画の仕事に携わり、

や組合に送り込んでいた。契約社員は原山さんのようにマンション管理の知識を持った人が多く、教育係や採用、営業などの仕事もこなす。

契約社員やスタッフになる人は、仕事や趣味に意欲的で健康意識が高い「アクティブシニア」が多い。年齢制限はなく、最高齢は85歳。スタッフは約1600人(23年11月時点)が登録しており、この1年だけでも約8000人が応募。その中から500人程度を採用したという。

航空会社のパイロットや銀行員、IT企業社員、料理人など職歴は多彩で、現役時代に培ったコミュニケーション能力などの社会経験を生かして活躍している。スタッフと契約社員に定年はなく、契約社員は70歳でも昇給やボーナス支給がある。

●交流にも力入れる

スタッフ同士や社員との交流にも力を入れている。この1年の間、東京と関西でそれぞれ5回、「輪の会」と呼ばれる集まりを開催。計100人以上が参加し、研修や懇親会を通じて交流を深め、仲間の輪を広げている。

は数十人規模から約1300人に増やした。売り上げは就任から3年で1.6倍にまで伸び、1993年の創業から30年で取り扱う物件数は延べ約3万棟に達した。

顧客の評価も高まり、手応えを感じた中川さんは23年3月、経営陣による自社買収(MBO)を実施。それまでは外部から招かれたプロ経営者だったが、自社株を取得したことで「オーナー経営者」に立場が変わった。

「健康長寿社会を創造し、日本を元気にする、唯一無二の会社を目指す」と改めて会社の存在意義を定めた。中川さんは「働くことでみんな元氣になっている。アクティブシニアを応援する会社でありたい」と話している。

【福富智】



もっと知りたい